日本カトリック看護協会会報

No. 2　昭和33年2月　本部 東京都新宿区下落合260　聖母病院内

看護婦の天職

クレメント　ヴオドレ神父

世界的に著名な看護婦の一人であるエリザベス・ケニイは，自著「苦痛には国境がない」という本の中で，彼女自身の生涯を暗示する様な，次の言葉を述べています。

「私の生活は，夜となく昼となく，余す所なく神に差上げてしまつた，一つの祈りでございます。私は私自身を，神への奉仕とその御命令の下におくために，朝目を覚まします。私は，自分が神のお仕事をしている事，そして神は，私に必要な力と忍耐とを下さると，云う事を信じて居ります。」と。

これらの言葉で，エリザベス・ケニイは，看護ということは，彼女にとつては，単に一つの職業ではない，単に生活費を稼ぐための道ではない，と云うことを，はつきりさせています。彼女にとつては，看護ということは，天の命じた職，天職，即ちこの言葉のもつ十二分の意味に於ける天職なのであります。

1952年5月26日，羅馬に集つた看護婦達に向つて，教皇ピオ十二世は次の様に仰有いました。

「我々は看護という仕事を，天職と呼びます。何故なら看護婦の職業に就く人は，キリストの愛の召出しに応じるものだからであります。“来れ，我が父に祝されしものよ，我が病みたりしに汝は我を訪いたり……いと小さきものに為しし汝は悉く我れになしたるなり。」と審判の日にキリストは諸姉に仰せになるでしよう」と

己が職業を天職と見る看護婦は，ひとつの雰囲気の中に生活するに違いありません。この雰囲気は，苦痛の問題に意味を与え，苦しみの謎を解き，病者は苦しみ給うキリストの兄弟姉妹であることを悟らせる処のものであります。

よく訓練された看護婦は，己が職務を如何に効果的に立派に遂行すべきかを知つています。然し看護という事は，単なる職業以上のものであり，此処には技術上の熟練以上の何かを必要とします。それは天職であり，献身であり奉献であります。看護婦の生活には，早朝の起床，終夜の勤務，際限のない巡回，精神病患者，癌患者，瀕死の病人の世話等々があります。世の中には確かにもつと安易な生計の立て方があります。然し乍ら，看護と云う仕事は，単なる職業の一つではありません。看護婦は，神の御計画の中に，己が場所を有つて居ます。看護婦は己が召出しを有つているのです。

それからこの世界は，神と高徳の司祭や修道女を必要とします。然し又，霊的に有徳な医師や看護婦をも必要とします。

娘達は，金銭のためだけで，又は看護婦の生活が好きだからだけで，看護婦にはなりません。とにかく，少くなくともなるべきではありません。看護婦として神に仕えることと，神が彼女に欲し給うが故に，看護婦になるのです。彼女にとつては，看護という仕事が，隣人に奉仕する事に依つてキリストの聖旨を最もよく果たし得る分野であり，それに依つて，この世に於ては幸福を，来るべき世にあつては永遠の幸福を得ることが出来るということを確信するが故に，看護婦になるのです。

看護婦は，キリストの友である病めるもの，苦しめるもの，恵まれざるものの世話をする為に，召されています。何事であれ，これ等の人々になす処は，キリストは，主自身への恩恵として，お受取りになるのです。

看護婦は，世界的に英雄視されたり，或は又華々しい報道価値を生む様な，奉仕の仕方をする様には，決して召されることはありますまい。看護婦の英雄的行為は異つた形を取ります。看護婦は，病めるもの，苦しめるものの裡に，キリストに仕えるのです。ヴエロニカの様に，彼等の傷をやわらげるのです。マリアの様にその側にいることが，彼等に苦しみを耐える助けとなるのです。理解する心が，彼等にとつては，精神的の素晴しい薬となるのであります。

神秘体への自覚

第二回世界信徒使徒職大会に出席して

医学博士　森口幸雄

永遠の都ローマ，この精神的焦点である，聖ペトロ大聖堂に於て，聖ペトロの後継者たる我等の慈父，パヽ様の大冒頭演説をもつて開始された第二回世界信徒職会議は我等の心の内にキリストの神秘体の一員としての歓喜と燃える責任感をひしひしと感じさせた。私はコングレガチオ，マリアナの代表として参加するの光栄に浴した。全世界80余ケ国より参集した約3,000名もの各国人はその人種国情風俗・言葉・政治・経済等のあらゆる相違を超越し度外視し，キリストに於ける兄弟としてこの大会即ち十月五日から十月十四日迄を切磋琢磨ししかも和気藹々と過す事が出来た。

国境を越えて

カトリシズムは普遍的なもので一大陸一国一民族に限定されるものでない事を此大会を通じて明かに見る事が出来た。初めて会つた人々と，我々の最も内面的課題，天主の前に於ける我々共通の目的とその方法，責任とその具体的実行について，十年以上の信頼感と親密感を持て忌憚のない意見の交換が出来た。司祭席に三名の黒人司教のおられた事も印象的であつた。パヽ様の演説後の開会式及び第一日程に於て，議長アフリカ象牙海岸カトリツク，アクシヨン会長ジヨゼ，アミシヤ氏がおされたが全員われるような拍手を以て此黒人議長に信服感を示した。三名のカルヂナル，各国大公使，30余名の司教，3,000名の各国代表の議長として，堂々とアミシヤ氏はカルヂナル始め各講演者の指名及び謝辞を述べ又簡単な結論も附加した。此の様な光景はキリストの神秘体につながる我等の集りでしかみられないであろう。

教皇様のお言葉

「イエズス・キリストは使徒等に二つ

の権能即ち司祭の権能と教える権能とを与えられた。司祭の権能は使徒の後継者たる教皇，司教から品級を通じて他の司祭に伝えられるが，教えることゝ教会を統治することは教皇と司教にのみその権能がある」と説かれ更に「司祭と信徒は宗教を教えることが出来るが，しかし教会の権威ある当局からの委任によつてのみに限られている。」「司祭の使徒職は司祭のものである。信徒の使徒職はどこ迄も信徒的なものとしてあるべきである。」旨言及され，司祭使徒職と信徒使徒職との間に一線あることを示された。

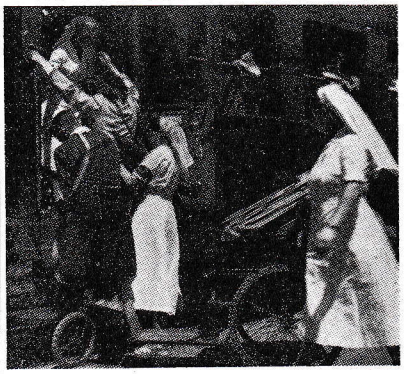
我々信徒の責任について強調され「教会と一諸に共同して仕事することは今日緊急な事であり，且義務的なことであり，すべての生活，即ち家庭，社会，経済，政治，生活にキリスト教精神をもちこむ事」といわれたが，今回の教皇様の演説の中にはこの「家庭，経済，政治，産業」と言ふ言葉が数回繰返された。特に我等信徒の特別な仕事として，「世界の聖化はなかんずく信徒，即ち経済，社会政治，産業，生活に直接結びついている人々の仕事である。」と言れた。此の事は演説の後半にがる「信徒使徒の養成」の部で，より実際的に「使徒的精神以外に行政，経済，社会，政治についての必須なセンスと真剣な訓練をもつと共に，勿論教会の社会理論を知らねばならない」と言れた。たしかに現代の非常に複雑なしかも進歩した時代に，一般社会に呼吸している我々信徒の不足している欠点と言うか，我々信徒の空白な局部を指適された事は事実である。「カトリツクアクション」の用語と構成についてのべられ「比の用語は国内及び国際的に認可された又組織された信徒使徒職の種々な運動の総称であつて，一つ一つの個々の運動団体はその特定の運動に従つて独自の名称があるべきで共通の名前にしなくてもよい旨のべられた。構成も用語に従つて，凡てのグループが「カトリツク，アクション」に属し，名前と自主性を保ちつつ形成する。次に特に欧州で問題となつている「信徒神学」の誤謬に言及された。「信徒神学」は何ら意味を持たぬ，しかし「信徒神学者」は存在し且価値がある。しかし出版する場合は教会当局の――こと，神学に関して――認定を要する。この点について，信徒の活動は特に，神学の研究が一般科学に価値あらしめる様にする事こそ望ましく，最近この目的で作られたゲレスゲゼルシヤフトで，神学者達と自然科学者達が，一般問題について定期的に討議される事につき，教皇が心から賛意を示されている事は意義がある事である。前で少しのべた「信徒使徒の養成」の部で「使徒的精神は子供のうちから早く培わるべきである。特に小学校に行く前から，熱心なキリスト教信者のお母さん方からの教育を通じて子供の心に芽ばえさせる様に」言われた。この様にして使徒職は毎日日分等の反射的行動の中に何等の心の負担もなく，むしろ喜びをもつて実行されてゆくであろう。

看護婦の燈台なる ルルドの聖母

今年はルルドの聖母御出現の，百年記念日に当りますので，私共看護婦の立場として，ルルドのメツセージについて，少し考えてみたいと思います。1858年2月11日，フランスの南国境ルルドの町のマツサビエールの洞窟で，童貞聖母マリアが，ベルナデツタスピルといふ一少女にお現れになりました。その日は非常に寒く，薄暗いほら穴に，マリア様は世にもまれな美しい貴婦人のお姿で，身には真白な服をまとい，明るいほゝえみを浮べて，貧しい少女にお話しかけになりました。私たち看護婦も，マリア様のように白衣を着て，病人の部屋に入ります時に，どのような感じを病人に与えておりますでしようか。マリア様のように美しい感じとほゝえみを人々に与へ，病める心を希望に輝かせ暖めておりますでしようか，18回の御出現の間，度々マリア様は，ベルナデツタが洞窟に着く前に，既に前からお待ちになつていらつしやいました。私達も病めるものを看護するに当り，呼ばれるのを待つてしてあげるのは普通のことでありますが，呼ばれる前，願はれる前に，愛徳をもつて必要なことをして差上げるのは，病人に非常に慰めを与へることであります。マリア様の御言葉の中にはベルナデツタに一つの約束

ルルドに於ける子供の祈り

をなさいました。「私は，あなたを此の世で幸福にして上げることは，約束しません。けれども後の世でね。」この言葉

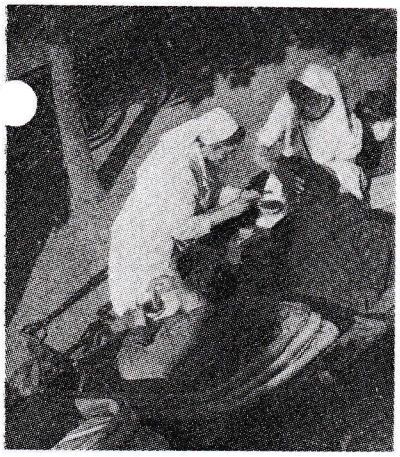


ルルド駅での病者の介助

は，イエルザレムの神殿に於ける御潔め式の，シメオンの予言といくらか似ております。「……我が目は，もはや主の救を見たゆゑに，これは万民の前に備へ給ふた御者で，異邦人を照らす光，御民イスラエルのほまれであるあ。…あなたの心も剣で貫かれるであろう。」（ルカ2章30～35）栄えの前に剣の傷，来世の幸福の前に此の世の試練，けれども約束によつて，希望に満ちた苦しみ，淋しさは，耐え忍びやすいことでありましよう。私達の周りに苦しんでいる人々に，その立派な希望を持たせ，苦難を甘んじ耐え忍ばせる使命は，看護婦の使命であります。マリア様は御苦しみをもつて，キリスト救世の御業に協力しましたから，キリストの協償者として，全世界の

元后でいらつしやいます。ベルナデツタは，心強く，肉体と精神的な色々な苦しみを耐え忍びましたから，今は天国の幸福と，此の世の最大のほまれを受けております。此の希望のメツセージを伝えるため，マリア様は，ルルドの御出現の時「祈り！犠牲！」の短い御言葉の中に，よきすゝめを与えております。私達も長いお説教をもつてまことの幸福に人を導くのは困難です。

病床に苦しんでいる病人は，時々気むずかしくなります。どんなに力をつくしても感謝せず，不平を言う時，ルルドのメツセージを思い出し，「祈り！」この人の心が平和に落着くように努めましよう。

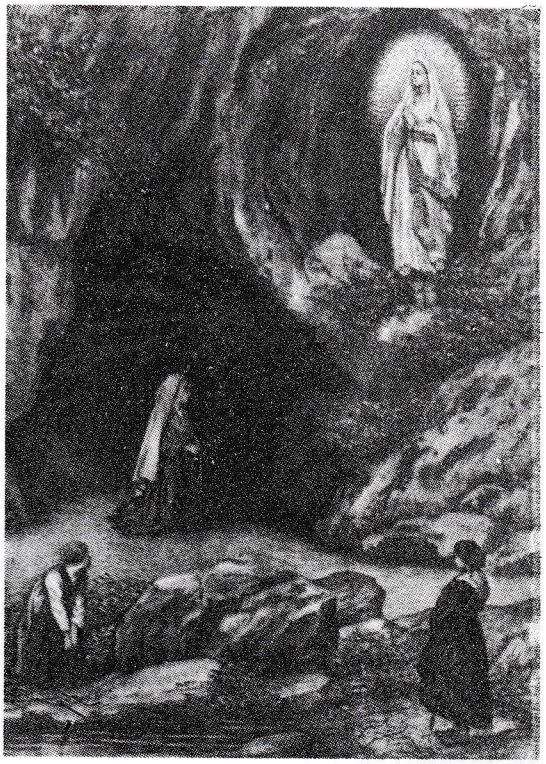


ルルドに於けるナースの活躍

私達の「犠牲！」をもつて仕え，明るいほゝえみをもつて，マリア様の使命を果しましよう。その時，この犠牲の花束は，やがてこの人の霊魂にあかるさと，喜こびを与えることが出来ます。そうすれば，私達に接する病人に，ルルドへ巡礼する病人のお恵みを，いくらか分けてあげることが出来ます。

ルルドに巡礼する人々のうち病気の快癒の恵みをうける人はほんのわずかですが，例外なく皆霊的の喜びを感じ新しい勇気をもつて，己が十字架を忍耐強くしのぶ力を豊に蒙るのであります。カトリツク看護協会の会員は，クリスマス号の荒井司教様の「看護協会の宝は，心の光明と愛徳のほゝえみでありましよう，それは何んな綺麗な会員バツチよりも大切にしていたゞきたいと思つて居ります。」との御言葉の実現されるため，よくルルドの声を今年こそ生かせましよう。

（東京　聖母病院）



ルルドの洞窟

支部通信

札幌教区支部　　斉藤　和子

年が改まると共に会報「創刊号」を手に致しましてJCNAの会員としての自覚を新にしての喜びは一入でございました。

今年から全国の会員の皆様と共に「心光明と愛徳のほゝえみ」を心に銘記し時間を大事にして自己の成聖に努力し会の発展のため微力をささげたいと存して居ります，1人1人が良い会員となることが会を発展させる原動力であるということを会長様は仰言いましたがほんとに同感でございましてこのすばらしい組織の中で良い会員となるべく育てて頂き度いと願うものでございます。それにつけましてもこの機関紙が会員一同の糧となりなぐさめはげましとなる様に全会員が協力しなければならないことを痛感致します。

中央から離れた当支部の状態は北端の稚内に1人，根室地方に1人という様に大半の会員が辺地に散在して居りまして，札幌まで一昼夜以上かゝるところが多いため月の集合等望むべくもなく支部の悩みでございましたから機関紙は充実した雑誌的なものを年に二回位発行して頂く事を望んでいたものでございますが度々送つて頂くこの様な会報の方が年に1,2回の雑誌よりもニユースも新しく会員としての自覚も深められ各支部の活動にも刺戟されるというフランシスコ様の御意見がこの度よく理解出来まして強く感じました。本部役員の方々の御努力に感謝して居ります。

北海道支部は地理的に何かと不便で支部としての団体活動は年に1度の総会をのぞき何もなくお恥かしいことでございますがこのクリスマスに「愛の袋」を貧しい方々に差上げました事を御報告申し上げましよう。1人でも多くの方々にクリスマスの真の意義をお教えして御降誕の喜びを共に味はつて頂き度く天使病院を中心とした会員が12月初めから募金を初め目標額1万5千円をえましたから木綿反物や日用品等を求めまして勤務の余暇に交替でパジヤマ，寝巻，丹前下，肌襦袢等を縫い之に日用品を添えて長期入院中のお困りになる26人の方々に差上げました。

この様なことはどちらでもなさつているのでございましようが活動の乏しい当支部のさゝやかな事業として「汝等がこのいと小さき1人になしたるところはすなわち我になししなり」との御言葉を行いましたもので「右の手のなすところ左の手之を知るべからず」と聖主は仰せになりましたがJCNAの1部のはたらきとして多くの方々に喜んで頂けた喜びをそのまゝ御報告申上げた次第でございます。何を致しましても数は力である事をいつも強く感じます。勿論仕事の大ささや量でなく主の御前に価値のある仕事が尊いものでありますがそれだけに私共は天主様のお国を栄えさせますために一人でも多く会員を増やす事を今年の仕事としたいものでございます。

×　　×　　×

名古屋教區支部会の其後のあゆみを御報告致します。さつそく規約作成にかかりまして昨年11月18日に，34名の出席を得，最初の例会を開催出来るに至り

ましたのは，ただただ主の御恵みと私共一同感謝の念にたえない次第でございます。プログラムは開会の祈りをもつてひらかれ，聖歌348番の斎唱，ひきつゞき協議会の報告ならびに本部規約の紹介がありまして，それから聖書研究に入り，其週の福音マテオ９ノ18～26までをとりあげ神父様の御説明のあと課題が出され，グループにわかれ，各々討議を致しました。その結果を一題それぞれにつき各グループの解答を発表し，またそれについて神父様の適切な御指導をいただきまして，いかに聖書を読まなければならないかということを痛感し，又この会を通じて聖書の中から主を知りよりよき使徒となるよう努力をつづけてゆくことを誓い，指導司祭ナーベルフエルト神父様により聖体降福式が挙行されこれをもちましてこの記念すべき第１回例会を有意義におえた次第です。第２回は12月15日に開かれまして，この日も第一回例会にならつて進行され，聖書はヨハネ１ノ19～28について討議をし，前回より一層活発な意見が出されたように思われました。第３回は本年１月19日に，新年会もあわせて開いたのですが残念なことに出席者が少なく活気がなかつたように思われました。聖書はヨハネ２ノ１～16までを討議しました。今回までは第1回にならつてのものでしたが，今後は，もつと実際面にそくした意見をかわし，相互の技術の面にも向上をはかつて行き，スライドなども利用して，楽しくしかも研究的なものにして行きたいと考えて居ります。

× × ×

仙台教区支部結成（11月17日）

その日は，雨天にもかゝわらず19名の参加者を得，その中には北の青森から，はるばる１名という少数ではございましたが，熱意のある人々によつて結成されました事を御報告申上げます。式は始業の祈りに始まり島田神父様，ラポルト神父様の御言葉をいただき，後経過報告，本部規約説明，支部規約審議，その他細部に亘つて討議かなされました。役員選挙は今回のみ推薦となり支部長シスターソフイア（光ケ丘スペルマン病院）が選出されました。何分にも無経験で結成式の場合も，又会員への呼びかけの点でも幼稚極まるような有様でございましたが，今度は支部長以下役員が一致して是非御期待に添うよう働いて参りたいと存じます。神父様方も大そう御力添え下さいまして福島からは，有資格者氏名を次々に知らせてまいりました。青森からも度々お便り頂きますし，岩手からは，遙々電話で励ましていただきました。只今は小さな弱い支部でございますが，守り育てゝ下さる方々の偉大さがございますから，いつしか大きな力となつて会の目的にかなつた支部が出来上る日を信じて居ります。

カトリツク系唯一の助産婦学校

募集人員　15名
修業年限　１年
受験資格　看護学校卒業者又は旧規則による看護婦
受付期間　２月１日より３月５日迄
入学試験　３月12日（東京）
　　３月13日（札幌）
詳細については返信切手同封お問合せ下さい

札幌市北12条東３丁目
天使助産婦学校

近況便り

札幌天使病院　下地　幸子

JCNA 会員の皆様お元気でございますか。北は北海道札幌からでございますが，昨年はクリスマスで暖冬異変等と云はれる程温かく雪もおしるし程度にしか降りませんでしたが今年に入るやいなや殆ど連日吹雪に見舞れ関係者をあわてさせたりしております。会報は先日載き読ませていただきましたが本当の所あまり小さいので何かのパンフレツトと間違つて見逃す所でした。関係者達の御苦労がしのばれます。今度第二号が発行されるとの事ですので丁度面白いニュースがありましたから筆をとつてみました。

新年といゝますと毎年ラジオ，テレビ等では○○特集と称して特集番組がある様ですが今年もその例にもれずＮＨＫとＨＢＣ北海道放送のＴＶの特集番組が元旦に放送されました。題して

「只今たんじよう」

札幌の三病院が選ばれそのうち一つに天使病院も加えられたわけです。

大晦日の夕刻から元旦の朝迄に生まれた赤ちやんをＴＶに撮すそうで天使病院始つて以来の出来事故皆大変な張り切り様でした。

さて衆人の注目のもとに第一声を上げた赤ちやんは――娩出時間午前０時４分男児，体重 4,650g――

これは正に，誰もが心の中でこの様な条件で生まれることをひそかに考え，又そうでないにしてもそうあつてくれると面白いという期待と好奇心との入り混つた感慨を裏書きするに充分であつたと思います。さて赤ちやんこそ一躍スターなつたわけですが先にも書きました様に分娩の当事者である母親は実にまる６日間食餌も睡眠も犠牲にして苦しみあわや帝切という所までいつてどうやらそれをまぬがれ，それでも前記の様に大きな赤ちやんですので鉗子分娩を行つたのでした。

児処置，家族と赤ちやんとの対面等その全てが画面に撮し出された時は何とも云えない気持でした。

画面のトツプは病院内にある大時計，Fin は病院玄間の廊下に飾られた御降誕を祝う馬小屋でしたがこれは見た方達に何らかの感慨をもよおさせたと思います。

惜しい事には病院内には１台のＴＶもありませんので見た人は極くわずかでした。童貞様にお見せ出来ないのが真に残念でした。その後は赤ちやんと同様に病院も一躍その名を広めた様でございます皆様の御健康をお祈り致します。

本部役員会の報告

昭和33年１月20日午後１時から本部仮事務所聖母病院に於て，第２回本部役員会を開催

出席者　顧問　松村管和神父様，井深八重子会長，副会長メール，カミリア，全栗原極子姉，役員スール・エリザベツト，シスターベネデイツタ，安田よき姉高橋恭子姉

機関紙創刊号について検討，パツチ作製の具体化，国連加入の件につき討議した。

創刊号については種々意見と要望が述べられた。国連加入は会長の尽力によつて事既に具体化し，申請書は総裁荒井司教様の御閲覧を経て送付されることになつた。

尚その他本部の基金として役員は寄附を募集すること，会員の研修会開催計画等も討議して３時40分閉会。

支部の皆様へおねがい

２月会報は，札幌，仙台，名古屋各支部便りを載せましたが，４月会報には大阪，横浜，新潟，広島，長崎その他の支部便りを掲載致したいと存じますのでどうぞ本部迄原稿をお寄せ下さい締切３月20日迄。（400字詰2枚半まで）

あとがき

◇１月 JCNA新潟支部結成さる，会長クロチルダ牧まし童貞

◇役員会報告の通り井深会長のお骨折りで国際カトリツク看護協会へ加入の件は，総裁荒井司教様の御承認を得て目下手続きを進めております。